社　会　科　学　習　指　導　案

日　時　　２００７年１１月2日（金）
生　徒　　富良野市立富良野西中学校
　　２年３組　３１名
指導者　　教諭　歌　田　　孝
場　所　　２年３組教室

１　単元名　　第３章の２　世界と日本の人口　　「４　地域の魅力をつくる」

２　子どもの実態と地理的分野で目指す子ども像

本学級の子どもは，社会科に対する関心が高く，発表活動が盛んであるなど学習活動に進んで取り組んでいる。特に１年時の「いろいろな地域を調べよう」の単元での北海道や富良野市を題材とした学習活動では，「調べてまとめる学習」や「自分たちで課題を設定し，解決する学習」に意欲的に取り組む生徒が多かった。しかし，基本的な事柄である地名や地理的な用語などについての理解や定着の面では課題がある。また，その基本的な事柄を使って，社会的事象に関する問題点や課題を考え，まとめることが不得手である。グラフや分布図を読み取ることは好んで取り組むが，グラフ特に円グラフや帯グラフを作成することは苦手である。毎日の学習活動の中に作業的な活動を取り入れ，個々にアドバイスしながら，正しくグラフを作成できるように指導に努め，少しずつできるようになってきている。グループ学習では班長を中心として，意見をまとめ，協力して課題解決に取り組むことができている。

今回取り上げる地理的分野の「第３章の２　世界と日本の人口」という単元では２つユニットに分けて再構成した。最初のユニットでは，世界の人口の状況や課題，日本の人口の特色について学習する。その学習をもとに次のユニットでは富良野市という地域からどのような魅力づくりを行って，「過疎化」という問題と人々が向き合っているかについて学習する。地域の魅力づくりの一つとして「富良野オムカレー」を取り上げ，「人々の営み」に焦点化することとした。自分で富良野オムカレーを有名にするための努力や工夫を考え，ゲストティーチャーの話を聞くことによって，自分の住む地域で努力している人々の姿を知り，地域の魅力づくりや自分の関わり方などについて，自分なりの考えをもてるような力を身につけていきたい。

地理的分野でめざす子ども像	広い視野から地域を多面的・多角的に考察し，理解するとともに，人間の営みへの共感から積極的に関わろうとする子ども
本単元でめざす子ども像	①　人口に対して興味をもち，課題をもつことができる子ども ②　人口の増減と人々の営みとの関係について，資料を読み取ったり，自分の考えをもって，発表することができる子ども。
ﾕﾆｯﾄでめざす子ども像	①　他の地域の魅力づくりを調べたり，読み取ることができる子ども。 ②　富良野オムカレーに焦点化して，そこに携わる人々の努力や工夫を考える子ども. ③　学習したことを自分のこととしてとらえたり，どのように関わっていけるかを考えることができる子ども。

3　研究の視点との関わり

（１）　人間の営みに絞り込む教材化

富良野市は上川南部に位置し，稲作や畑作などの農業がさかんである。また，テレビドラマ「北の国から」やラベンダーなど富良野を訪れる観光客は年間２００万人あまりである。また，最近は情報雑誌に富良野の農産物や乳製品を使った「富良野オムカレー」が特集され，ＰＲをさかんに行っている。

本ユニットでは地域の過疎化を食い止め，地域を活性化するために，その富良野オムカレーを題材に取り上げ，人々がどんな努力や工夫をして，富良野オムカレーのＰＲを行っているのかをとらえさせ，自分ならどのように取り組むのかを考えさせていきたい。他の地域の取り組みを調べたり，ゲストティーチャーの助言から地域を活性化させることに焦点を当てたい。

【実態と目指す子ども像，基礎・基本を重視した教材化の構造図】

学習指導要領の目標と内容

◇目　標

⑷　地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め，様々な資料を適切に選択，活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

◇内　容

⑶　世界と比べて見た日本

ア　　様々な面からとらえた日本

世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を追究し，我が国の国土の特色を様々な面から大観させるとともに，地域の規模に応じて，また，地域間を比較し関連付けて，地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。

（イ）　人口から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て，日本は人口が多く，また，人口密度が高く，平均寿命が長い国であること，少子化，高齢化に伴う課題を抱えていることといった特色を理解させるとともに，国内では平野部に多くの人口が集中し，過密・過疎地域がみられることを大観させる。

定着させたい基礎的・基本的な内容

①　富良野の人口や観光客の推移のグラフを読み取ること。
②　他の地域の取り組みを調べ，まとめたり，発表したりすること。
③　地域の農産物や乳製品，畜産物を使った富良野オムカレーを有名にした人々の努力や工夫を調べ、知ること。
④　富良野オムカレーを有名にするための自分の考えをもつこと。

子どもの実態

○地理より歴史の方が好きな生徒が多い。
○課題解決のために様々な資料を調べて，まとめることが好きな生徒が多い。
○白地図で分布図を作成して，読み取ることを得意としている。
●富良野という地域について，人々の営みについて，知らない生徒が多い。

ユニットの目標

基幹産業の農業や畜産で生産されたものを富良野オムカレーという形で売り込み，地域を活性化させようとしている人々の努力や工夫を考えることができる。

目指す子どもの姿

○人口や観光客の推移をグラフから読み取ることができる。
○他の地域の取り組みと富良野市の地域活性化の取り組みを比較することができる。
○富良野オムカレーは地元の農産物や乳製品，畜産物を使用していることに気づくことができる。
○各班で自分の意見を発表し，まとめることができる。

追究の核　１
富良野の人口や観光客の推移

教材の中核
富良野オムカレー

追究の核　２
他の地域の活性化の取り組み

追究の核　３
富良野オムカレーの誕生

（２）　事象と自分との関わりを深め，学びを自分ごととする学習の構成

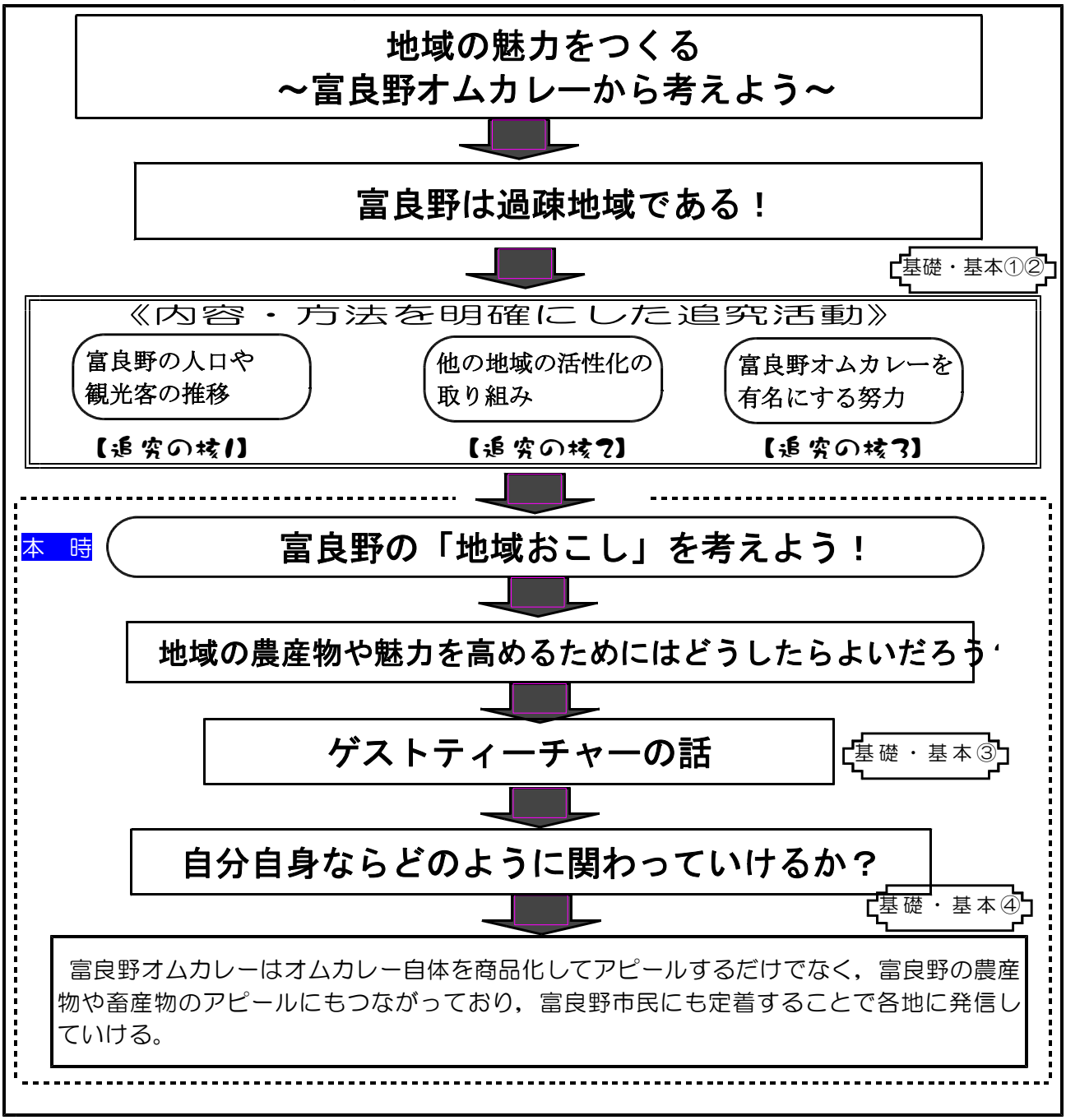
富良野市という地域の魅力をつくる人々の努力や工夫を知ることにより，「過疎化」という問題と向き合い，地域をどのように盛り上げていくかを考えるために「富良野オムカレー」に焦点化をし，学習を構成した。

追究活動では追究の核１で富良野市の人口や観光客の推移を読み取ることによって「過疎化」がすすんでいることを学び，追究の核２で，他の地域の取り組みについて調べ，まとめる学習をしていくこととした。そこで学んだ知識や情報を活用して，富良野市でどのような地域の魅力づくりをしているかを考えさせることとした。

追究の核３では，富良野オムカレーに注目して，誕生させた経緯の話をゲストティーチャーからして頂き，その富良野オムカレーをどのようにして，もっと有名にしていくかをグループで考え，発表する。その後，ゲストティーチャーにアドバイスをもらい，子どもたちの考えを整理していきたい。

子どもたちにとっても「ふるさと給食」などでなじみの深い富良野オムカレーを地域の活性化につなげて，自分たちがどのように関わっていくかを考えていくことによって，「人間の営み」に主眼を置いた学習にしていきたい。

【学習した内容と自分との関わり】



（３）　社会を見つめ，関係を築く，社会科授業の評価

①　既知の見方や考え方のズレを生み，新たな疑問を生む場の設定

富良野市はラベンダー畑やテレビドラマのロケ地などの観光を主力にホテルやペンションが多く，毎年，たくさんの観光客が訪れていることは子どもたちも知っている。しかし，人口は毎年，減少していることは子どもがあまり認識をしていなかった。

そこで，他の地域の人々の営みを資料を通して読み取り，過疎化に対してどのように取り組んでいるのかを理解することによって，過疎化に対して人々はどのように考え，取り組んでいるのかを疑問がもてるようにしていきたい。

②　子どもの実態を考え，良さをのばしていく単元の構成

今回，取り上げるユニットは，ゲストティーチャーを招き，子どもたちの住む富良野市という地域が人口が減り続けている「過疎化」とどのように向き合い，取り組んでいるのかをグループを使って話し合い，考えることとした。

ゲストティーチャーの富良野オムカレーを誕生させた経緯の話を通して，地域の農産物や畜産物，地域の魅力を高めるためにどうしたらよいかを考える機会を作っていきたい。

③　社会の一員としての目覚めを引き出し，地域の良さを認識する場の設定

ゲストティーチャーとの関わりを通して，富良野市で生活をしている子どもたち自身が，地域の魅力を高めていくために，過疎化と向き合っていける力を育てる機会として教材化をした。

子どもたちが富良野オムカレーを有名にするための取り組みを考え，人々がどのような努力や工夫をしているのかをゲストティーチャーの話を聞いたり，グループの話し合い活動を通して，子どもたちが住んでいる富良野市の魅力を高めていくことに関わっていける意識を高めていきたいと考える。

４　ユニットの目標及び評価基準

ユニットの目標	基幹産業の農業や畜産で生産されたものを富良野オムカレーという形で売り込み，地域を活性化させようとしている人々の努力や工夫を考えることができる。			
ユニットの評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	様々な事象に興味をもち，意欲的に調べることができる。	地域の魅力づくりと自分との関わりを考えることができる。	分布図をグラフを作ったり，読み取ることができる。	人口に関して，問題点や取り組みを理解することができる。

５　ユニットの指導計画と評価計画

第３章の２　世界と日本の人口　【本時　　２　／　２　】

ユニット	学習過程	おもな学習活動	教師のはたらきかけ	具体の評価基準
１	人口の様子	○分布図やグラフの作成	○グラフの読み取り方	表グラフや分布図を書くことができ，読み取ることができる。
	①６４億人の地球のうえで	○人口の増加について	○高齢社会について考えせる。	関人口に関する課題や問題点に興味をもつことができる。
	②長寿の社会のなかで	○年齢別人口割合について	○高齢化が進んでいる ○グラフの読み取り方	知人口分布と平均寿命の長さを理解する。
	③住みやすい都市のために	○過密化について	○なぜ，過密化をするのかを考えさせる。	表ＪＲや私鉄の路線を確認し，衛星都市やニュータウンを書き込むことがで　きる。
２ 【本時】	④地域の魅力をつくる	○過疎化について ○魅力ある地域づくりを考える。	○過疎化を食いとめるための取り組みを考える。 ○自分と富良野との関わりを考える。	思身近な地域「富良野」から地域活性化のための努力と工夫を考えることができる。

６　本時の目標

（１）本時の目標

身近な地域「富良野」から地域の活性化のための努力と工夫を考えることができる。

（思考・判断）

（２）具体的な手だて　～北の人間力にかかわって～

① 富良野の地域の活性化のために，人々がどのように関わって成功させているかをグループで話し合う。
② 多の地域の活性化のために，どのような取り組みをしているのかを資料から考えていく。
③ 富良野に生きる人として，関わる意識を高めていくために興味をもてる資料を提示する。

（３）本時の展開（２／２）

子どもの活動と思考の流れ	教師の支援と評価
① 富良野オムカレーを試食する。 ・なぜ，富良野はカレーが有名になったのかを考える。 ・考えたことを発表し，意見の交流をする。	○ 富良野オムカレーを各班に１つ，提示する。 ○ 班で話し合い，まとめられるようにアドバイスをする。
学習課題 富良野オムカレーを「地域おこし」にできないかを考えよう。	
② ゲストーティーチャーの話を聞く。 ・富良野オムカレーが誕生した経緯。 ・どのような努力や工夫をしているか。 ・どのような課題があるのか。 ※聞いて大切なことはメモをとる。	○ ゲストティーチャーの話で大切なところをメモするように指示をする。 ・メモの取り方 ・話の聞き方
③ 富良野オムカレーをどのように有名にしていくかを班で話し合い，発表をする。 ・班で出た意見を班長を中心にまとめる。 ・まとめた意見を色画用紙に記入して，黒板に掲示する。	○ 発表の仕方と色画用紙へのまとめ方を説明する。 思 どのように有名にしていくかを考えることができる。
④ ゲストティーチャーに各班から出た提案についてアドバイスをもらう。 ・アドバイスされたことをメモをとる。	○ ゲストティーチャーのアドバイスを聞いてメモをとるように指示をする。
わたしたちが富良野オムカレーから地域の活性化にどのようにに関われるだろう。	
⑤ 班長を中心に話し合い，発表をする。 ・班で出た意見を班長を中心にまとめる。	思 富良野オムカレーから自分と地域がどのように関わりをもつことができるかを考えることができる。
⑥ 今日の授業の感想をまとめる。	